

離島覚書（大分県・地無垢島）



左が沖無垢島（無人島）、右が地無垢島、島の左隅が集落

平成 25 年 7 月 22 日

市有地

地無垢島は大分県津久見市に属し、豊後水道に浮かぶ面積 0.29 km²の小さな島である。すぐ隣に無人島の沖無垢島があり、面積はこちらの方が大きい。この2つの島を合わせて無垢島と呼んでいる。

津久見市役所で、保戸島と無垢島の情報を入手し、16時発の連絡船「カメラリア・スター」（19トン、定員30人）で無垢島に向かった。無垢島への連絡船は月、水、金曜日は1日1便、火、木、日、祝祭日は1日2便が運航している。津久見港から地無垢島までは約16km、所要時間は約30分である。料金は840円。乗客は私1人だった。乗員は2人で、乗員の子供と思われる小学生が操舵室に入って遊んでいた。1日2便の日は、朝7時30分に地無垢島を出発した連絡船は15時30分ないしは16時に津久見港を出港する。したがって乗員はその間時間を持って余すのではないかと聞くと、島の人に買い物やいろいろな頼まれるので結構忙しいらしい。連絡船は津久見市が運営している。

地無垢島の集落は島の北のはずれに開けている。船が棧橋に着くと、その先に民宿若松のおかみさんが迎えに出ていた。民宿若松は島で唯一の宿泊施設であるが、「ご主人を亡くし、高齢になったため今はやっていない」との返事であったが、離島の旅の趣旨を話し、強引に泊めてもらうことにしたものだ。実は日にちを勘違いして昨日も出迎えにでていたらしい。

民宿は集落の北のはずれにあり、隣が今は休校となっている無垢島小・中学校である。無垢島の歴史はよくわかっていないが、移住してきたのは明治時代のことで歴史は浅い。民宿若松によれば、今の島民の先祖は、本土側の臼杵市、保戸島、愛媛県の佐多岬の方面からそれぞれ移住してきたようで、島の姓が、薬師寺、小松、梅田、榎本、橋本、金森、

笹山、木下、下宮などと多様なのはそのことを物語っているという。ちなみに民宿若松は薬師寺という姓で臼杵浦から移住した3代目だそうだ。無垢島周辺は好漁場であったころから、漁業にやってきた人が住み着いて集落が形成されたのであろう。

津久見市史には、地無垢島の集落の歴史は次のように紹介されている。

「藩政期は臼杵・佐伯、佐賀関の漁民の入会漁場であり、藩政期に集落の起源を求めることは無理のようである。居住の始めは、明治初期ともいわれ、明治6（1873）年に岡山県の阿賀崎村の戸川七郎が、無垢島の払い下げをうけ、15haの開墾の計画をたてているが、計画通りに実施されたかどうかは不明である。明治14年には、無垢島に4戸、9人が居住している。島には神話や伝説などはまったくない。先祖は山脇重助というひとであるといわれているが、どうしてこの島に住みつこうようになったかはわからない。現在も山上にその人の墓があるという。しかし、現在、その関係者は島にはいない。また、愛媛県の三崎の人が最初に無垢島に住んだともいわれている。この島の親類縁者は近くの保戸島や臼杵・津久見・佐賀関が多く、さらに愛媛県にもある。」

この島の土地所有はこうした島の成り立ちと関係するのかもしれないが、島全体が津久見市の市有地で、島民は私有地を全く持たない。島民は市に借地料を支払って借りている。ちなみに民宿若松の年間借地料は14,800円だそうだ。市からは買ってくれないかといってくるが、どうも島民の足並みがそろっていないようだ。

突きん棒

民宿若松に落ち着き、お茶を一杯御馳走になり、区長さんの所在をたずねた。私と同じような旅人が昨年11月に泊まったそうだ。話を聞くと三重の川口さんであった。川口さんはどうやら私の先を歩いているようにみえる。また、全離島踏破を達成されている本木さんも昔ここに泊まっている。民宿から島の区長さんに電話をかけてもらい、島の話を知りたいと申し入れをしたところ、明日は朝から漁にでかけるので今がよいとの返事。早速島の公民館で話を聞くことになった。

区長は橋本正八（65）さん、私と同一歳の団塊の世代だ。橋本さんは島の中学を卒業後、26歳までの10年間、突きん棒漁船で働いた。この年に突きん棒漁業がなくなったため、愛媛県八幡浜の漁船に1年間乗っていた。静岡県の下田を拠点とするキンメダイ釣りの船で、当時はミッドウェイまで出かけたそうだ。それから、島に戻り、潜水漁業と一本釣り漁業を営んでいる。

突きん棒漁業は、主にカジキ類を銚で突く漁業で、江戸時代から営まれてきたが、大分県では明治3、4年頃から始まっている。大分大学の「大分県地理11」によると、昭和46年当時、大分県には大分県突棒漁業協同組合の所属船29隻、臼杵遠洋漁業協同組合の所属船13隻の合計42隻の突棒漁船があった。大分県以外でも、千葉、長崎、愛媛、神奈川、岩手などの諸県でも行われているが、大分県のような専門船は少ないと書かれている。

橋本区長の話では、島の人が雇われていた突きん棒漁船の船主は、津久見市、臼杵市臼杵浦、今の豊後大野市の三重町であった。島の人々が船長になり、1隻に7～8人が乗り組んでいたが、この当時島のほとんどの人がこの突きん棒漁船に雇われていた。6月～9月中旬まで岩手県の釜石、秋から長崎にいて正月前まで操業、正月から大島、銚子方面で

操業したそうだが、しかし、突きん棒漁業は、昭和 40 年代に入ると、大目流し網漁業などが始まったことによって大きな打撃を受け、撤退を余儀なくされた。

入会漁場

平成 22 年の国勢調査時の島の人口は 62 人、33 戸であったが、平成 25 年 4 月時点の住民基本台帳では 51 人（男：21 人、女：30 人）、27 戸に減少している。島の人口のピークは昭和 35 年で、180 人いたことから当時の 1/3 以下に減少している。区長の話では、昔は 15～16 戸で分家により世帯数は増えたが、現在は 23 戸のうち空き家が 3 軒というから、実際に住んでいる家は 20 軒になる。

平成 22 年の国調時の産業分類別就業人口をみると、30 人のうち漁業が 16 人（53.3%）、教育・学習支援業 8 人、運輸・郵便業 4 人、宿泊業・飲食サービス業 1 となっている。当時小中学校があったので教育・学習支援業の 8 人を除くと、連絡船の乗組員、民宿若松以外はすべて漁師である。現在島で生活をしているのは 40 人で、このうち 36 人は漁業に従事しているそうだが。男は 17 人、女が 23 人で、男は一本釣りと潜水漁業、女は潜水漁業とテングサ採りなどの採藻漁業に従事している。漁師で 47～48 歳が一番若い。年寄りも 86～87 歳。老人は日和の良いときだけ、夏の風の時に漁に出る。女の潜水漁業従事者は 10 名程である。

島の代表的な漁業である潜水漁業は 4～8 月が漁期で、地無垢島、沖無垢島の両島の周囲が漁場となる。両島の周囲には磯が発達していてウニ類、サザエ、アワビ、トコブシなどが漁獲される。操業時間は 7 時から 16 時と決まっている。

無垢島の周辺は無垢島の島民の専用漁場にはなっていない。佐賀関、津久見、臼杵、保戸島の 4 支所の入会漁場となっている。この慣行は藩政期から続いていたようだ。昭和 60 年発行の津久見市史には、無垢島の島民の独占的な地先権が認められていないために、資源管理や生産面で不利益を被っていることが書かれているが、現状では入会漁場であることによる大きなトラブルは発生していない。現在、保戸島から 6 人、臼杵市の泊ケ内（トマリガウチ）から 20 人程、津久見支店からは 4 月に 5～6 人が 10 日程来るが、佐賀関からは来ないという。

潜水漁業はウェットスーツを着用する素潜りである。男は船外機を使用し 1 人で漁場に行き潜る。女は 1 人で行く場合もあるが、複数で行くケースも多い。女の潜りは 6 月 20 日から 8 月末までのバフンウニ採りがメインである。漁場は背が立つ程度の浅所で、干潮時に操業する。男は深いところでは 20m 程潜り、サザエ、アワビが中心で、ウニ類はあまり獲らない。橋本さんの場合はウニの口開けの時にちょこととるだけ。トコブシ（ナガレコ）は水深の深いところに分布するため、島の周辺で操業しているのは泊ケ内の 1 隻と地無垢島の 2 隻だけである。地無垢島の 2 隻のうち 1 隻は橋本さんである。アワビはクロとメガイの 2 種類が分布するが年々減少しており、今では 1 日 1 個獲れるかどうかという資源水準に減少している。サザエは 1 日に 30 kg 程獲れるが、昨年は特に多かったという。ウニ類はアカウニとバフンウニが漁獲対象であるが、今年はアカウニが死んでしまい、全く姿がみられないという。ウニ類は島でむき身に加工し、塩辛瓶詰にして個人で販売している。

昔は4月でも手が「こじける」(かなわん) ことがあるほど、水温が冷たかったが、今はそのようなことはない。水温は確実に上昇しているという。このため、昔に比べると海藻が少なくなっており、深いところから海藻が枯れているという。ただ、今でもクロメを中心にホンダワラ類も分布しており、無垢島の藻場は県内各地との比較でみれば、相対的に健全であるということができよう。



無垢島漁港の漁船と潜水漁業

民宿若松

橋本区長に話を聞いてから、集落内を散策。といっても、集落は東西 200mの範囲に収まり、家が2列に並ぶ背後は急峻な山地であることから、散策は30分もあれば十分だ。地無垢島は周囲 3.0 kmで、このうち海岸沿いを歩けるのは 400m 足らずである。標高は 111m であるが、登山道はなく、草ぼうぼうの山地に分け入るのは困難で、おのずと行動範囲は限られる。集落の反対側に相当する島の南斜面はとりわけ急峻で岩がむき出しになっている。集落内には今は休校となっている小中学校と無垢島神社があるだけで、郵便局、交番、行政機関、病院、漁協事務所などおよそ公共施設と名のつくものはない。車も必要なく、島には軽トラが1台あるだけだ。

民宿若松は昭和 40 年頃から営業している。家は 50 年以上前に建てられたものだ。最初は島にやってくる反物や背広売りの行商人を泊めたらしい。当時は一泊 600 円だったそう。保戸島の山内旅館に相談したところ、民宿にしたらいいと勧められて許可をとった。2階に 10 畳、6 畳の2部屋あったので、この2部屋を客室に当てた。

ご主人は一本釣りの漁師であったが、5年前に亡くなり、現在は75歳になる独身の弟と一緒に生活している。子供は夭逝し、以後恵まれなかったため夫婦二人の生活が長かった。民宿は国鉄や新日鉄の慰安会のお客が多く、いつとき繁盛したようだ。島はどこもいくところがないので、新鮮な魚を食べに来るのが目的だったのだろう。

風呂は屋外の別棟にある。汗を流し、早速夕食となった。当日の料理は、ブリの刺身、ナガレコ(トコブシ)の煮付け、バフンウニ、さつま揚げ・南瓜・人参の煮物、タイ唐揚げ、ニイナのかき揚げであった。ブリは一本釣りで盛んに釣れているのでこの日のものだ。刺身の量は多いので、ヅケ用に返した。ウニは当日女漁師が獲ってきたものを剥いたものだ。ナガレコも潜水漁業で獲ってきたものだろう。ニイナは潮間帯に分布する巻貝類、むき身にしたものを野菜と一緒にかき揚げにしたものだ。缶ビールを2本飲み、飯を1膳食

べた。

寝室は港の前にある倉庫の2階の6畳間であった。



民宿若松と夕食の料理

平成 25 年 7 月 23 日

一本釣

4時過ぎにエンジン音で目が覚めた。漁船が次々と漁港を出て行った。タイ釣りに出かけたのであろう。

一本釣りは潜水漁業と並ぶ島の重要な漁業である。朝早く出漁して、15～16 時頃戻ってくる。漁期は周年だが、資源状況に応じて潜水漁業を組み合わせる。主な対象種はマダイ、ブリ、アジ、サバで、タチウオが回遊してくればこれも対象とする。

タイ釣は、イカを釣って生きたものを餌とする。ブリ類も同様であるが、イカを模した疑似餌を使う人もいる。アジ、サバも疑似餌を使って漕いで釣る。タチウオの釣り方は広島県の豊島から伝わってきたものだ。70～80 本の針に疑似餌とところどころに生餌をつける。生餌はイカナゴか、アナゴの尻尾が用いられる。

釣った魚は漁船の活間に入れて持ち帰り、漁港内に浮かせている籠に収容する。佐賀関に仲買業者が1社、保戸島の帰りに地無垢島によるので、この業者に専ら販売している。なお、4～5月に獲れるサザエを中心とした磯物は漁協（県漁協津久見支店）に出荷している。

近年、資源の減少が顕著だという。浜値は最盛期の1/3になり、生産金額は半分以下に減少しているらしい。このため、漁業を継ぐ人がおらず、商船の乗組員になっているそうだ。

ツバキ

昭和40年代頃まで、島では自給自足の時代が続いていた。急峻な北側斜面を切り開き段々畑をつくった。突きん棒漁業で島を留守にする男にかわって、農業は女の仕事であった。段々畑では、麦、芋がつくられた。牛や馬は飼っていなかったのもっぱら人力によって畑を耕していた。

戦後の戦後の食事は麦とイモが主食だった。一升到米1合、麦9合の割合だったという。昭和20～30年代までの間、唐うすで麦をつぶして殻を飛ばし、石突きで粉にしたそうだ。

当時は島に麦摺りの業者が巡回してきたという。かんころ（サツマイモ）は叩いてイモ団子にして食べた。島ではこれを「ボゼ」といった。

昭和30年頃から米が食べられるようになったが、米がふんだんに食べることができたのは正月だけだったという。また、卵は、学校の遠足の時に年に1回、ゆで卵を食べることができるほど貴重であった。

しかし、戦後の生活を支えた段々畑は漁業による現金収入の増加とともに耕されなくなり、農産物はみなお金で買うようになった。その結果、耕地は放棄され、荒れ放題となつてしまった。

この段々畑を再生し、島おこしと取り組まれたのが椿の植林である。島にはもともと椿が自生していたので椿の実から油をとろうというものだ。東京都の利島や長崎県の福江島は椿の産地として名高いので、これらの離島にヒントを得たのだろう。

朝飯前にこの椿林を見に行くことにした。宿で道を聞いたら、最近森林組合の人が来て草を刈ってくれたので登れるだろうという。

集落を抜けると漁港の西側が埋立てられ、漁村集落整備事業でつくられた公園があった。アスレチックを兼ねたすべり台やあずまやが整備されているが、公園内には草が生い茂っていた。しばらくいくと、山側の斜面に新しい墓がいくつも並んでいた。とりわけ薬師寺家の墓は立派だった。後で聞いた話では山の上にあった墓は不便なので海岸近くに移したのだという。薬師寺家の墓は、民宿若松の一族のもので本家と分家を併せて、新しく建設したものだという。ちなみに島には寺がないので、島の人たちは隣の保戸島のお寺の檀家になっている。

やがて海岸道路は途切れ、山の斜面を斜めに登る道が現れてきた。なるほど草は刈られていたが、クモの巣が行く手を阻み、あまり人が歩いた様子はない。想像していた以上に悪路である。しばらく進むとマダケの竹藪があり、そこから山の上に向かう山道は急こう配である。両側は石垣が積まれた段々畑であるが、一段の畑の幅は数m程で狭い。この畑で麦や芋がつくられていた。農地は1カ所に固まっておらず、民宿若松の農地は4カ所に分散していたようだ。



椿畑に登る山道と椿の実

この旧農地に椿が植えられ、実がなっていた。椿は30年ほど前に植えられたものでかなり大きな木に成長している。椿の実は大きく感じられ、油脂採取用に品種改良されたものだろうか。9月の終わりころから椿の実をとる。干して種を乾燥、蒸して、油を搾る。

以前は島の婦人会が椿の実の採取にあっていたが、高齢化にともない厳しい急斜面での作業が大変になったことから、今では第2土曜日の休漁日に男が実を採りに行くようになった。

ケアマネージャーとバキュームカー

集落は朝からざわついていて、島で発生したゴミは、3カ月毎に本土から来た運搬船に乗せて本土に運び、処理している。今日はその回収日であった。大きなビニール袋に入れられた飲料缶やら粗大ゴミが各家々から運びだされ、港の近くに並べられている。3カ月分のゴミだから相当なものだ。また、ゴミ収集の日はし尿の回収日でもある。運搬船からバキュームカーが降ろされ、回収が始まった。島の女たちもホースを出したり引いたり忙しい。

島には医療機関がないので、月に1回医者が出る。これとは別に、ヘルパーとケアマネージャーが毎週火曜日にやってくる。偶然にも当日はその日にあっていた。島で介護保険を受けている人は2人、整形外科のリハビリの世話になっている人が5～6人いるという。ケアマネージャーは、お年寄りの健康相談と体温、血圧を測定する。津久見市から依頼を受けた福祉施設「しらうめ荘」のケアマネージャーが民宿若松にやってきて、集まった高齢者から健康の様子を聞き、測定をしていった。ついでに私も血圧を測定してもらった。



民宿若松で血圧測定をするケアマネージャーとし尿回収に来たバキュームカー

貴重な水

島の水事情はたいへん厳しい。集落内には4つの井戸があるが、このうちのいくつかは塩分を含み、飲料水には適さない。このため、井戸水は洗濯や料理の下ごしらえや洗いものに使っている。風呂の水はもっぱら屋根の上などに設置したタンクに溜まった天水である。

飲料水は1日1回本土から船で運ばれ、タンクに溜められる。タンクは海の近くに1基、山の上に1基あり、上のタンクにポンプアップしておく。山のタンクから位置エネルギーによって水道管を通じて各家に供給される。しかし、この給水船が就航したのは昭和52年のことで、それまでは井戸水と天水に依存していた。真水の井戸は年に3分の1ぐらいい空になり、渇水期には近くの保戸島などに漁船で水をもらいにいったそうだ。

しかし、雨が降らず、船が欠航になれば、とたんに島は水不足におちいることになり、今でも地無垢島の水事情は厳しい。

ちなみに電気は昭和 41 年に自家発電ができ、さらに昭和 49 年に海底送電が可能となり、不自由なく電気が使えるようになったのはつい最近のことである。



連絡船の発着場前の井戸水を使い洗濯する住民と雨水なので手洗い用に限定の注意書き

船の時間まで少し間があったので、民宿の隣にある小中学校を訪れた。昔の写真を見ると同じ場所にあったと思われるが、今は漁港の東側が埋立てられ、グラウンドが整備されている。校舎は鉄筋 2 階建である。

島の小中学校は昭和 39 年 4 月に分校から独立した。昭和 57 年時点で小学生 10 人、中学生 11 人を数えていたが、平成 24 年 3 月に小学校が休校、中学校には 2 年生の生徒がいたが本土に転校したため、中学校は今年の 3 月に休校となった。

海岸道路を再び歩いていると、海岸近くに船外機が 3 隻、素潜りでウニを獲っていた。

12 時発のカメリア・スターで地無垢島を後にした。朝の便で島にやってきたケアマネージャー一行、島に草刈に来た人たち合わせて 12 人が一緒だった。同じく朝の便で来た釣り人は乗らなかったのが夕方の便で帰るのだろう。津久見港に着くと、市役所の企画財政課の職員が待っていて、頼んでいた国勢調査等のデータを手渡してくれた。市の親切な対応に感謝する。

【文献】

津久見市(1985)：津久見市史

長瀬啓子(1971)：臼杵湾南岸の突ん棒漁村、大分県地理 11